



Q. 海外でのリーグ公式戦の開催について進捗状況は？

－ タイバレーボール協会と会場の確保を調整しているところで、どのクラブがタイで試合をするのか、ホームゲームにするかリーグ主管にするのか、渡航費の負担はどうするのかなどについてもこれから詰めていくことになる。女子はタイの一流クラスの選手が多くいるので、そういった試合を放送・配信も含めタイのファンの方々に観ていただく。タイでの興行を 3 年～5 年のくらいのタームでしっかりと根付かせていき、その次はどの国で行うかということも考えているところ。

Q. オンザコートルールに関して、今後国籍の制限を全く無しにして、世界トップレベルの選手が集まるようなリーグにしていける可能性もあるか？

－ 可能性としては考えていきたい。オンザコートについてはどのルールをとっても賛否はあり、変える事への反対は必ず出る。日本にいながらオンザコートの外国籍選手の人数を増やすよりも、海外に行ってプレーする方がレベルアップするのではという意見は一部正しいと思う。一方で、主力選手が皆海外にいるという状況にもなってしまう。頑張ってアリーナを整えマーケティングをしっかりとやっていけば、事業規模の大きい日本に優れた選手を呼んで、日本に世界最高峰のリーグを作ることができると考えている。大学生などの若い年代のうちに海外で修行し、トップレベルが集まる日本に帰って来るというようになればと思う。オンザコートフリーは究極の姿で理想形だが、まずはオンザコート 3 というポーランドやイタリアセリエ A に合わせていく。

Q. VBTV との契約の経緯は？

－ VBTV で日本以外の全世界で大同生命 SV.LEAGUE の全試合を配信するが、全世界で LIVE 配信しているスポーツは日本には他にないと思う。一年目はそれぞれの国のプラットフォームで放送・配信もしており、並行して VBTV との話も進めていたが、SV リーグは各国からハイレベルの選手が集まっているのでまずは全世界で配信をする方向にした。配信はあるが、地上波での放送も追加で枠を獲得していきたいと考えている。

Q. ラインジャッジに変更はないか？

－ ラインジャッジは従来と変わらない。自動判定を導入する為には各会場にカメラを設置することになるので、トライはしていくが相当な運営コストにはなる。

Q. インバウンドの観光客へのチケット販売対応は考えているか？

－ その課題は認識していて改善したいと思っている。現状のチケットプラットフォームは変えず、例えば旅行代理店と契約して席を確保しておくなど、手作業にはなるがそういった事もできる。

Q. 海外戦略強化の中で、ヨーロッパリーグとの連携はどういったものをイメージしているか？サントリーx ペルージャ戦への期待は？

－ ペルージャ戦は国内外のトップチームが戦う事で SV リーグの開幕に向けても話題になるのでありがたいことだと思っている。

SV リーグにユースチームを作っているので、ユースが海外に遠征して経験したり、若手指導者が留学して現地クラブと提携したりできないかという事を考えている。若いうちに海外で経験することは何物にも代えがたい価値がある事だと思っている。各クラブ同士がアジアやヨーロッパのクラブと提携することも今後増えていくと思う。

Q. 国際大会の結果を受けて SV リーグにどのような影響があるか？

－ 例えば開幕カードの NEC 川崎 xSAGA 久光のチケットはほぼ完売している。この機会に来場した観客をリピーターにしてファンの満足度をあげていく事が大事。男子はリピーターを増やす事に成功しているクラブもあるが、女子はまだまだ SVL としても助言・サポートをしていかなければならないと思っている。これが一過性の人気で終わらないよう、これをどう本当のコアファンにしていけるかどうかということが試されている。

Q. ファンデータベースマーケティングの進捗状況は？

ファンクラブ会員とチケット会員のデータベースのドッキングが今年からできるようになった。2 年目からはファンクラブのデータを活かしたマーケティングをしていければと思う。クラブによっても差はあるが、女子プロジェクトでこのデータをどう使いこなせばいいのかをサポートすることを考えている。

以上